

2003年10月30日

コンテンツビジネス振興に係る課題

社団法人 日本書籍出版協会
著作・出版権委員会

出版物全般にわたる翻訳出版の奨励策

コンテンツ専門調査会の第1回会合においては、コミック、アニメーション等が、日本発のコンテンツの成功例として取り上げられ議論されておりました。

コミックなどの出版物は、国内外を問わず、出版産業およびコンテンツ産業の中において重要な地位を占めております。2002年封切の日本映画興行成績上位17作品（2003年1月（社）日本映画製作者連盟発表資料）のほとんどすべてが、コミックや小説などの出版物を原作としております。

特にコミックは、現在、海外で翻訳出版されている日本の出版物のうち、金額ベースで大部分を占めています。2002年の日本国内の書籍・雑誌を含む出版市場全体にしめるコミック雑誌・単行本の売上高は、22.6%となっています（出版科学研究所「2003出版指標年報」）。出版市場の残り約8割を占める小説等その他の分野の出版物においても、日本発のコンテンツは数多く海外に翻訳出版されております。

最近では、オンライン書店の普及によって、日本での売上げランキング等が海外でもリアルタイムで容易に把握できるようになり、それらを参考にして翻訳出版のオファーが来ることが相当数出てきているのが実情です。

これまでも、日本の文学作品は海外でも高い評価を受け、数々翻訳されてきました。ただし、それらはいわゆる純文学作品に限られ、日本国内では多くの読者を得ているミステリー、エンターテインメント作品はそれほど翻訳出版されておられません。

このような我が国の良質のエンターテインメント作品を、コミックと並んで海外でビジネス展開していくことが、コンテンツビジネス振興に係る課題と考えます。これには、出版社、著作者の努力が必要であることは当然であります。たとえば以下のような公的なサポートが効果的です。

翻訳出版の奨励と翻訳者養成への助成

欧米諸国では、元来、言語体系が似通っているヨーロッパ諸国語間での翻訳者に対する社会的評価は決して高くなく、その伝統の延長で、日本語からの翻訳者も十分な評価と経済的条件に恵まれることが少なく、優れた翻訳家が育ちにくい状況があることが指摘されています。このような状況を改善するため、日本語著作物の翻訳者養成に対する助成策が実施されるとともに、我が国の優れた著作物の翻訳出版に対する助成が行われ、海外諸国における日本の著作物に対する一般的な関心を高めることが期待されます。文

化庁によって現在、我が国の優れた文学作品の外国語版出版への助成が進められておりますが、このような動きをさらに強化していくことが必要です。その場合、作品の選定などに際し、広い意見聴取や関連団体との協調も有益と考えます。例えば、出版社やリテラリー・エージェントは、海外でどのような作品が求められているか、またその展開方法などで、具体的かつ有用な意見を持っています。

日本の著作物の海外紹介の促進

国際交流基金等によって、在外公館あるいは在外の日本研究施設等に対し、日本語の図書を寄贈する事業が行われております。また、社団法人出版文化国際交流会では、毎年、世界各国のブックフェアに、国際交流基金の助成を得て出展し、我が国出版物の紹介事業を長年にわたり続けております。

海外における日本研究の発展と広がり、我が国発のコンテンツが受容される環境を整備していく上で、非常に重要なことでもあります。たとえば、毎年10月に開催されるフランクフルト・ブックフェアは世界最大のブックフェアであり、世界102カ国から約6600社の出版社が出展しております（2003年度）。日本からの出展者は50社ですが、これに対し、欧米からはアメリカ716社、イギリス867社、フランスから197社、イタリア287社と多数の出版社が出展しております。もちろん、地理的な問題や言語の問題があり、同列には論じられないのはもとよりであります。このような国際間での著作権取引の場、日本からさらに多数の出版社が参加し、取引拡大に努めることが重要であると考えます。

このように各地のブックフェア等への出展助成等、日本文化の海外紹介の機会をできるだけ確保するための措置を国としてご検討いただくことを要望いたします。

以 上